

ライバルは姉妹であり同志



姉妹で五輪を目指す
愛望さんと、彩夢さん
美浜町奥田の運動公園陸上競技場で

日福大・林さん

トライアスロン五輪へ切磋琢磨

美浜町の日本福祉大で、トライアスロンのトップアスリート姉妹が切磋琢磨している。スポーツ科学部3年林愛望さん(20)、1年彩夢さん(18)は西尾市出身。陸上競技部と水泳部の練習に参加し、質の高い環境で競技力を伸ばしている。

(石井豪)

愛望さんは高校3年の2022年、史上最年少の17歳で日本選手権を制した。大学はトライアスロン部のある学校も考えたが、地元

陸上部と水泳部で専門性高い練習 手応え

チームのコーチから「今は陸上と水泳、単体で力の伸ばせる方がいい」とアドバイスされた。駅伝にも挑める日福大を選んだ。彩夢さんは、高校1年から800、1500メートルの両種目で全国高校総体に出場するほどの走力の持ち主。トライアスロンは中学3年のころ、本格的に始め、昨年の日本選手権は8位に入っている。

大学はやはりトライアスロン部と迷ったものの、高校3年で総体に出られず、駅伝にも悔しさが残っていたといい、陸上も続けたかった。姉に大学の練習の様子を聞いたというが、愛望さんは「あまり相談された記憶はない」と笑う。姉妹ともに、今も週末に指導を受ける地元コーチの出すメニューに沿って、陸上部や水泳部の練習に加わる。両部で専門性の高いトレーニングを積んでいる。たとえば2人は水泳が苦手というが、水泳部のコーチからは身体感覚に根差した具体的な助言が得られ、動作改善につながっている。愛望さんは肩甲骨を使い、しっかり水をかけるようになった。彩夢さんも「入学した時より速くなった感覚がある」と既に手応えをつかんでいる。

愛望さんは大学1年時に調子が悪く、「競技人生で最も悩んだ」ときがあった。それでも徐々に成績は上向き、「やっていることは間違っていない」と現在は練習スタイルに自信を持っている。

町で2人暮らしをする同志でありライバル。「仲は良いと思う」と語る愛望さんは28年の五輪出場を目指し、32年は2人同時にとも願う。

愛望さんは「負けないように頑張らないといけない。(妹には)張り合えるぐらいまで来てもらいたい、日本のレベルを一緒に上げていきたい」、彩夢さんは「まだ日本もそこまでレベルが高いわけではない。自分より上の選手を抜いていきたい」と意気込む。